徳洲会グループ
TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP

発行
一般社団法人徳洲会
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-3-1 東京堂千代田ビル14階
TEL：03-3262-3133

制作
一般社団法人徳洲会　広報部
TEL：03-3288-5580　FAX：03-3263-8125
Email：news@tokushukai.jp

ALL LIVING BEINGS ARE CREATED EQUAL

徳洲新聞

TOKUSHUKAI MEDICAL GROUP NEWS

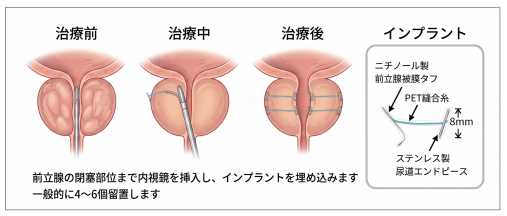
No.1562

前立腺肥大症に対する新たな低侵襲手術
「ウロリフト」沖縄県で初めて実施
南部徳洲会病院

南部徳洲会病院（沖縄県）は８月12日、前立腺肥大症に対する治療「ウロリフト」（経尿道的前立腺吊り上げ術）を実施した。沖縄県で初。同術式は侵襲が少ないため、従来法では手術が難しい高齢患者さんや併存疾患のある患者さんの治療の選択肢になる。一般的な泌尿器科用内視鏡（膀胱尿道鏡）設備があれば導入できる点も強みで、都市部と比べ専門医や高度・大型設備をそろえにくい離島・へき地医療との相性が良いのも特徴だ。徳洲会グループで実施施設が増えつつある。


9月9日にはウロリフト2症例目を実施。治療は15分程度で終了


「多くの患者さんの負担軽減やQOL向上をサポートしたい」と吉岡医師



ウロリフトの手技に要する時間は20分程度

前立腺は、膀胱のすぐ下にあり尿道を取り囲む臓器。この前立腺が加齢とともに大きくなって尿道を圧迫し、頻尿や残尿感といった排尿障害を来す病気が前立腺肥大症だ。80代男性では8割以上に見られるとされ、高齢化が進むなかで患者さんが増えている。

一般的に、治療は薬物療法となり、十分に改善しなければ手術を検討する。手術には、長らく主流となっているTURP（経尿道的前立腺切除術）や、レーザー手術などがあるが、前立腺組織を切除したり蒸散（焼灼）したりするため、出血量増加や尿失禁といったさまざまなリスク、さらに入院期間の長さや術後も再肥大に備え長期にわたり尿道カテーテル（管）を留置するなど、負担があった。勃起や射精など性機能に影響が及ぶ可能性もあり、患者さんが治療をためらう一因にもなっていた。

ウロリフトは2022年に保険適用された比較的新しい治療法。膀胱尿道鏡と専用のデバイスでインプラント（体内に埋め込む人工材料や部品）を肥大した左右の組織に運び、吊り上げることで尿道を物理的に押し広げる。手技そのものに要する時間は20分程度。前立腺組織の切除や蒸散（焼灼）などは行わないため、従前の手術よりも出血や尿失禁といったリスクは少ない。

性機能を温存しやすいのも利点のひとつだ。入院期間も、術後の状態によるがTURPが1週間ほどだったのに対し、ウロリフトは1泊2日ほど。尿道カテーテルも基本的に手術翌日に抜去するなど、患者さんのQOL（生活の質）向上も期待できる。ウロリフト直後の合併症として、排尿時の違和感や頻尿、尿意切迫感などが挙げられているものの、多くは自然と改善する。

徳洲会グループ内で広がり

南部徳洲会病院は、吉岡拓哉・泌尿器科医師が7月頃にウロリフト導入に向け、向山秀樹・副院長兼泌尿器科主任部長ら同科医師と準備を開始、8月12日に初症例を実施した。吉岡医師が執刀し、9月9日には2例目を手がけた。いずれも高齢の患者さんで、経過は順調だ。

「当院には、年齢や複数の持病を理由に従来の切除手術が難しい方、あるいは従来の手術を受けて尿道カテーテルを長期にわたって留置している患者さんが少なくありません。患者さんの負担軽減や生活の質向上を実現したいと考え、ウロリフトの導入を決めました」（吉岡医師）

吉岡医師は「本土に比べ、沖縄県は前立腺肥大症に対する低侵襲手術の選択肢は限られているのが現状」と指摘し、ウロリフトの導入しやすさを強調する。

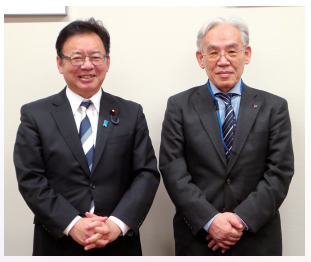
「他の低侵襲手術に比べウロリフトは機器が小型。手技の習得も、TURPなどは技術が安定するまでに50例ほどの経験が必要と言われていますが、ウロリフトは専用デバイスの製造・販売業者による事前のeラーニングと約2時間の実技講習、1例目から15例目までの立ち会いで、基本的にはインプラントを打つ位置が押さえられるようになります」と吉岡医師。

導入のハードルが低いウロリフトは、都市部に比べ専門医や高度な機器を確保しにくい離島・へき地の医療とも相性が良いと言え、徳洲会グループでも導入が広がっている。

徳洲会グループのウロリフト実施施設（9月25日時点）

札幌真駒内病院
羽生総合病院（埼玉県）
野田総合病院（千葉県）
成田富里徳洲会病院（千葉県）
武蔵野徳洲会病院（東京都）
茅ヶ崎徳洲会病院（神奈川県）
榛原総合病院（静岡県）
野崎徳洲会病院（大阪府）
岸和田徳洲会病院（大阪府）
生駒市立病院（奈良県）
出雲徳洲会病院（島根県）
鹿児島徳洲会病院
徳之島徳洲会病院（鹿児島県）
南部徳洲会病院（沖縄県）

東上理事長が上野厚労相と会談
「目の前の患者さんにベスト尽くす」
国際医療協力やTMATなども紹介


東上理事長（右）と上野厚労相が会談後に記念撮影

東上震一・医療法人徳洲会理事長（一般社団法人徳洲会理事長）は9月18日、東京・永田町の議員会館で上野 賢一郎・厚生労働相と会談した。冒頭、東上理事長はグループの原点に触れ、「医療は目先の利益や利権にとらわれることなく、目の前の患者さんのためにベストを尽くすという初心に立ち返ることが重要です」と、患者中心の医療の重要性を強調した。

また、インドネシアで建設中の「ハラパンキタ・徳洲会循環器病センター」など近年、力を入れている国際医療協力の現状についても言及。「海外への医療支援でも、現地のニーズに寄り添い、現地の医療従事者と協力しながら支援を続けています」と、持続可能な国際貢献の重要性を説明した。さらに、大規模災害への対応力強化に関し、NPO法人TMAT（徳洲会医療救援隊）に対する支援や、救急医療体制の整備を今後も着実に進めていく方針を伝えた。

これに対し、上野厚労相は徳洲会の多角的な取り組みに深い理解を示し、地域の安心・安全を守る医療提供体制の維持と、さらなる充実に期待を寄せた。また、上野厚労相からの「他の医療グループとの違いは何ですか」との問いに対し、東上理事長は「単に利益を求めないことです」と即答。徳洲会は営利的な構造をもたず、医業の結果として得られた利益をすべて、現場の環境整備や患者さんに還元してきた経緯を示した。

徳洲会は今後も“生命だけは平等だ”の理念の下、質の高い医療の提供と地域社会への貢献を果たし、真に患者さんに寄り添う医療の実現へ邁進していく構えだ。

「大腸がん」テーマに市民公開講座
石垣島病院&かりゆし病院などが開催


「40歳以上は年1回の検診を」と内間・主任部長

石垣島徳洲会病院（沖縄県）とかりゆし病院（同）は8月15日、石垣市、沖縄県立八重山病院と「第4回医療に関する市民公開講座」を共催した。八重山地区医師会が後援。昨年度から石垣島内3病院と市が共同し年2回、疾病予防などのため開催している。今回は大腸がんがテーマで、島民の方々など約100人が来場し盛況だった。

冒頭、中山義隆・石垣市長と宮良長治・八重山地区医師会長が開会挨拶。続いて中部徳洲会病院（同）の内間恭武・消化器外科主任部長が「早く見つかれば怖くない、大腸がんのお話」と題して基調講演を行った。

罹患数・死亡数ともに大腸がんは上位でありながら、検診受診率が低い現状を指摘し、「早期に発見できれば9割以上は治せます」と検診受診の重要性を訴えた。ロボット支援手術の登場など術式の進化や薬物療法など治療法も説明した。この後、かりゆし病院の伊舎堂奈津子・管理栄養士など多職種がそれぞれの視点で大腸がん予防に関して発表を行い閉会した。

石垣島病院の小畑慎也院長は「『症状がないから大丈夫』ではなく、症状がないうちに検査を受けることが何より大切だとお伝えしたく、今回このテーマを選びました。八重山地域の方々にひとりでも多く検診を受けていただき、早期発見・治療につながればと考えています」と呼びかけている。

榛原病院のフランシア家庭医療科職員
6カ国語を操る医療通訳が好評!!


「互いの文化を尊重し、つながり合う関係を築くことが大切です」とフランシア職員

榛原総合病院（静岡県）のフランシア・イヴォン・カンポス・チンチア家庭医療科（医療通訳）職員が、外国人患者さんから好評を得ている。スペイン語や英語、ポルトガル語、日本語など6カ国語を使い分け、外来診療への同席、手術前の説明、検査・入院手続きの案内などを行う。母国コロンビアの医師免許を取得しているため、医療に関する専門的な情報や特有の表現も円滑に意思疎通することが可能だ。

静岡県が運営する外国人向け生活支援施設とも密に連携し、外国人からの電話やメールでの相談にも対応。フランシア職員は「医療制度の仕組みやメリットを含め、丁寧に説明し、病院と患者さんの認識のずれをなくすよう心がけています」と強調する。

来日は2007年。大学の博士課程で日本語や、公衆衛生、予防医学を中心に学んだ。そのなかで、災害医療に従事するNPO法人TMAT（徳洲会医療救援隊）を知り、その母体の徳洲会グループに関心をもつとともに外国人が多い地域でもあることから、同課程を修了した13年、同院に入職した。


ベネズエラ地震では通訳を務めながら、患者さんの心のケアにもひと役

TMAT隊員の資格も有し、6月のベネズエラ地震では医師兼ロジスティシャン（後方支援・現地調整員）として派遣。現地で通訳を務めながら、患者さんの心のケアにも、ひと役買った。現在は同院に勤務しながら、日本の医師国家試験合格を目指している。